



環境・会報

第15号

所沢市環境推進員連絡協議会

発行責任者 会長 齊藤 禮次郎

所沢市ホームページ

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

連絡協議会及び外部委員会での活動報告

会員の皆様、いつもご苦勞様です。皆様の地道で確かな環境推進活動が行政や住民にも認識されていますので、会長の私にも、あちこちから協力参加の声がかかるようになって参りました。

所沢市の環境に関する重要な委員会には、団体の代表者として活動させていただいています。

今年度は「所沢市廃棄物減量等推進審議会」副会長、「所沢市合流式下水道緊急改善事業」アドバイザー等も勤めさせて頂き、現在は「所沢市環境審議会」副会長、「所沢市ごみ減量・資源化を進める市民会議」の会長を拝命しています。

審議会では「環境に関する市民意見」を広く求め検討し、計画に反映しながら策定作業を経て平成23年3月までに答申する予定です。

「所沢市ごみ減量・資源化を進める市民会議」では資源循

会長 齊藤 禮次郎



環型社会の形成にむけて、家庭や事業所から排出されるごみの減量・資源化を進めるため4つの部会が設置され環境推進員協議会のメンバー22人ほどが、夫々の部門に参加し、まとめ役を仰せつかっています。

市民会議ではごみ減量・資源化を進める活動方法や市民の皆様に分り易く、また分別にご協力いただけるような「家庭ごみの分け方・出し方」のポスター又は冊子等も作り、実際に生かせる報告書（平成23年6月迄）を作成すべく各部会で奮闘中です。

低炭素化社会への意向が強くなる中で、環境推進員連絡協議会の環境目線の拡大と組織のレベルアップが大きな課題と認識していますので、これからもご支援の程よろしくお願い申し上げます。

環境講演会「地球環境とエネルギー・地球温暖化と異常気象」

気象予報士 村山貢司さん

当会的一大イベント環境講演会は冬晴れの1月27日（水）午後1時からミューズ中ホールで盛大（入場者750人）に行われました。

テーマは「地球環境とエネルギー・地球温暖化と異常気象」講師は気象予報士の村山貢司さん。齊藤会長の主催者挨拶に続き当麻市長より来賓代表として所沢市の環境行政、環境推進員メンバーへの感謝の言葉を、頂きました。本番の講演は、長い間NHKのお天気おじさんで鍛えられていることもあって宇宙・地球・気象などというとらえどころのない話題を庶民の感覚におきかえて具体的に明示され、あっという間の1時間半でした。

結論としては今までのように化石燃料のみに頼らず風

力・太陽熱・地熱・バイオマスなどのエネルギーをバランスとって取り込み、電気自動車なども開発し、それとともに庶民の生活レベルでも、もったいない精神で、冷蔵庫にいっぱい詰め込まない、コンセントをこまめに抜くのが大切ですと提案されました。

第二部では所沢在住で所沢観光大使のジュレップスのメンバーが6曲披露、特に最後のウイング・オブ・ラブでは所沢の自然を謳いあげてくれ、若いファンもしっかり環境の大切さの勉強をしてくれ、和やかで有意義な半日となりました。

（編集委員 M）



●航空公園外周道路清掃活動

恒例の清掃活動は10月19日(土)、11地区400名
環境推進員の参加により実施

今回は、4回目となる本活動の目的は所沢市民の憩いの中心であり、各種施設がある同公園を市民が楽しんで利用できる様、環境作りと清掃活動をすることにあります。この奉仕活動は推進員が1年に一度各地から集まり情報交換の場にもなっています。

会を重ねることにより刈払機やエアブローなどの本格的な道具を持ち込む達人もあられ、約2時間の作業も瞬時に過ぎ、参加者の連帯意識が強まった1日でした。皆さんお疲れ様でした。

(編集委員 K)



●小手指第8区自治会の東川清掃活動

小手指地区環境推進員協議会 大館 章

小手指第8区自治会では環境活動として東川の清掃活動を平成14年度から実施し今年度で8回を数えます。毎年8月の暑さの中の実施ですが約110名~140名の会員が集まります。

当日は、先ず地区の環境推進部長が開催の挨拶と県土整備事務所からの軍手、タオル、ごみ袋の支給があり地道な活動の評価を受けていることを報告、次に区長が本清掃活動が地区の方々の交流の機会として果たしている役割を話され、続いて市議等の来賓挨拶で「地区の自然を守っていく大切さや先輩達が東川の浄化に努力してきたこと、私たちが守り継ぐこと等」話され、また「源流の会」の人達は生態調査のため捕獲したフナ、モロコ、カワムツ、ドジョウ、ザリガニなど水槽で展示し成育していることを紹介しました。役員から収集物の分別について説明があり、作業は8時45分ごろから北野保育園から天神通りまでの約1キロの流域の清掃を環境推進員の先導で区域別に作業に入り、散策道・中州の除草を行い、

廃材・ビン・缶・木切れ・ビニール等を拾い集め分別集積し作業を終了しました。

作業終了後はお茶・ダンゴで懇親を図り次回の実施方法などを確認しあいました。

なお平成18年度からは清掃区域を上流の第4分会も開始し清掃の範囲が拡大しましたが、さらに上流地域へと輪を拡げたいと思っています。この活動に際しては小手指出張所、市環境クリーン部の協力を頂いています。



●秋季視察報告 環境モデル都市 飯田市

飯田市は09年春に環境モデル都市として政府により認定されました（千代田区、横浜市、豊田市など13ヶ所）ので、視察すべきであるとバス1台に42名（男36、女6）で11月17・18日雨と雪の中、出かけました。

環境モデル都市宣言をした背景やその実施状況を思い描きながら飯田市役所へ到着、古びた庁舎の有効活用に感心しながら大会議室へ。講義は小林・地球温暖化対策課長により地域環境の背景や行政が如何に住民に分かりやすく楽しく仕掛けを作っているか、飯田市が持っている環境力を戦略とした環境文化都市を作り上げているのか、そして日本の環境都市コンテストで飯田市はどの位置にいるのか（08年・飯田市3位、毎年エントリーしている）、市民のモチベーション向上の手段に利用していることも、環境モデル都市、飯田市の取組などを聞くことが出来ました。

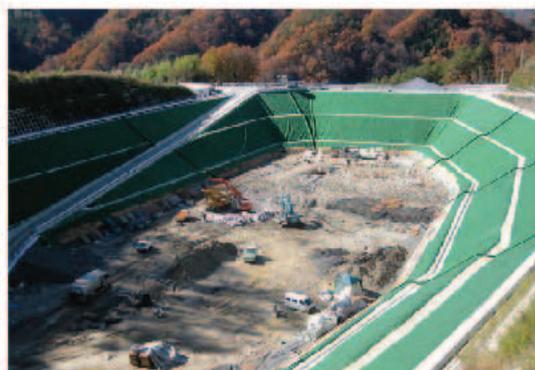
太陽光市民共同発電の展開、木質ペレットの利用拡大、自転車のまち飯田、自転車市民共同利用システム、低炭素企業活動ではLED防犯灯の共同開発と市内防犯灯への活用、また環境モデル都市や他の自治体への販売促進を実施しています。またこれらを発展させるために5年以内に具体化させる目標を立てその取組も進んでいるとの事。

人材の育成にも、力を入れており、目立つのは地球温暖化防止コーディネーター制度を設け、現在10名が登録され、それぞれが専門領域を持って活躍されています。バスの中で見た太陽光発電の普及状況も進んでいると実感できました。「地域の潜在能力を高める」には人材の縁を大切に育むことが一番であり、物事の捉え方を変えるパラダイム・シフト、あらゆるネットワークを組織化してゆくパートナーシップ、そして情熱・情熱・情熱が必要ではないでしょうかと結ばれました。

その後「おひさまパワーでエネルギー地産地消」のエコ・ファンドを通じ全国から7億円の出資者を集め、その成果と運用報告があり目標回りも順調に達成しているとの報告がありました。

翌日は飯田市環境産業公園内にある(株)アース・クリーン・マネジメント（ペットボトル・リサイクル/国内3位規模）視察と最近できた飯田市ごみ最終処分場（3200トン/年・プラスチックの焼却はしない）の視察を環境アドバイザー松沢さん（73歳）の情熱あふれる飯田理論を交えながら説明を受け一同感銘を受けて帰路に着きました。

（編集委員 K）



●エコプロダクト2009展 視察報告

環境問題が大きく国民に問いかけているとき、話題性を託した展示会が昨年12月にビックサイトにて開催、年々来場者数が増え今回は3日間で18万人であった。当・連絡協議会はその1日を40数人のメンバーにてバスで所沢からダイレクトに会場へ向かい、溢れる東館の中、昼食を挟みながら視察、大半が初めての展示会見学なのでその大きさに圧倒されながら最新の環境情報を入力、中には最近話題の環境モデル都市の出展コマに釘付けになった人もいました。

本展示会は日本経済新聞社が主催で毎年開催されています。



●環境コラム 核実験と温暖化 柳瀬 丸山千尋



レイチェル・カールソンの「沈黙の春」(1962年発表)が地球公害の聖典となったのは事実だが、あの作品のなかではいま大問題になっている炭酸ガスについては全く触れられない。しかし、実際には大気中の二酸化炭素が気候を変化させると推測した学者は何人もいた。当時の農業による農作物や生物への被害の大きさに比べ、気候の変化がマスコミや世論の関心をひかなかったのかも知れない。スウェーデンのスバンテ・アレニウスは1896年の論文で「もし大気中の炭素が現在の2.5倍～3倍に増えたら北極圏の気温は8～9℃上昇するだろう」と発表し、地球温暖化の祖父とも言われるロジャー・レベールは、1946年ピキニ環礁での核実験(22回)に参加したとき、人類の活動が地球の自然のサイクルを変化させると確信したという。1957年、レベールとハンズ・スースは「人類は化石燃料を急速に消費することによって、まさに地球規模での地球物理学的な実験を開始した。この実験は、もしそれがきちんと理解されるなら気象や気候を決めるプロセスにつ



いて深い洞察を与えてくれるだろう」と発表している。人類はついに太陽エネルギーの発生と同様の核融合による核兵器を開発、生産管理しているわけだが、その開発技術の結集をもって、地球壊滅に繋がる地球温暖化を食い止めることが出来るのであろうか。

●レジ袋削減・マイバッグ推進キャンペーン

平成21年10月28日(水)午後3時より新所沢駅西口及び東口ロータリーで、2月19日(金)午後4時よりマミーマート山口店頭にて、マイバッグ推進キャンペーンが行われました。当麻市長の挨拶から始まり、市長を先頭に環境クリーン部長、次長、斉藤会長を含む環境推進員約20名が、通行の方や乗降の方に所沢市のロゴマーク入りのマイバッグを無料配布して、推進の呼びかけをしました。



●秋の環境美化の日 報告

11月1日(日)市内全域で秋の「環境美化の日」一斉清掃活動が実施されました。今回は、天気にも恵まれ、環境推進員を始め、自治会や多くの市民の皆様のご協力を頂き、大きな成果がありました。

- ・参加者数 21,783人(前年20,872人)
- ・回収ごみの量 38.88トン(前年36.92トン)

●歩きたばこ等防止啓発キャンペーン

7月1日(水)に続き、12月1日(火)午後6時から市内8駅の14出入り口で歩きたばこ防止啓発キャンペーンを実施しました。当日は、各地区の環境推進員230名が参加。約1時間に乗降客に携帯灰皿、チラシ等を配り、喫煙マナーの向上をお願いしました。

今回は(埼玉県西部地域まちづくり協議会)構成団体である飯能市・狭山市・入間市との共同キャンペーンとなり、4市がそれぞれの駅頭で歩きたばこ等の防止を呼びかけました。

●秋の古着・古布・陶磁器リサイクル(もったいない市)

家庭で使われなくなった古着や古布、破損していたり、使わなくなった陶磁器をリサイクルするため、今年後半の事業が10月18日・25日・11月15日・29日の4日間市内43ヶ所で実施されました。

- ・古着古布回収量 57,350 kg(前年59,670kg)
- ・陶磁器回収量 8,182 kg(前年7,481kg)
- ・参加者延べ数 7,974人(前年10,125人)



編集後記

今回の会報は環境推進員連絡協議会の活動内容を取り上げました。ごみ減量・資源化にむけての3Rの取組など更なる啓発普及も課題です。政権交代によりグローバルな視点で環境問題や取組への対応が大きく変わることを期待したいものです。

※※※発行された会報は1色刷の白黒版ですが、

ホームページ上ではカラー版を提供しています。

編集委員：小林輝邇・丸山千尋・毛利吉成

事務局：所沢市環境クリーン部生活環境課

☎04-2998-9370